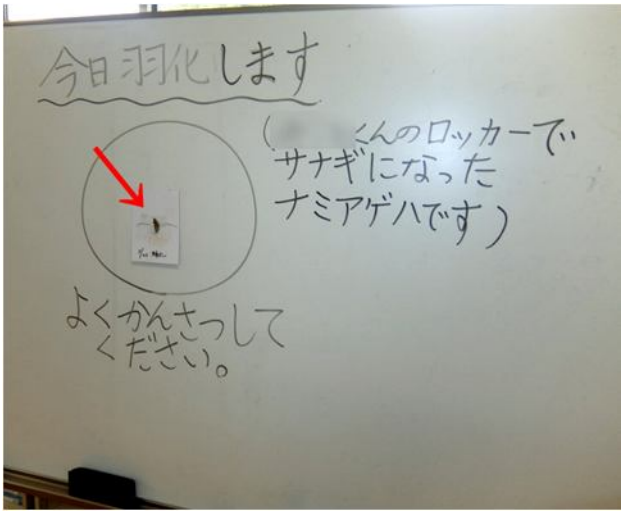
「日々の理科」（第 1077 号） 2017（H29）,-6,18

「サナギから羽化へ（６）」

お茶の水女子大学附属小学校　田中　千尋

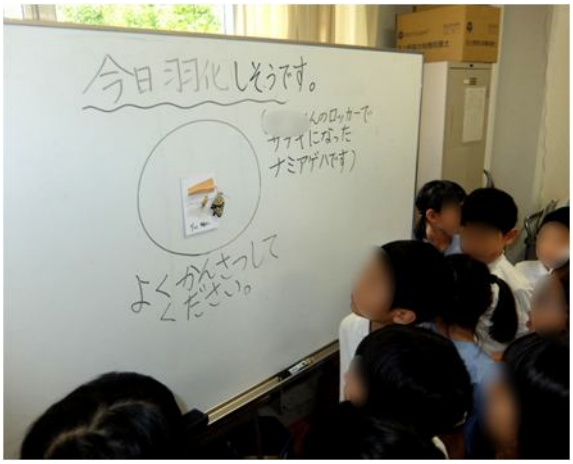
男児のロッカーの中で羽化しそうになっていた、ナミアゲハのサナギは、「サナギホルダー」にして、子どもたちが登校する前に、学年ワークスペースのホワイトボードに「掲示」しておいた。



子どもたちは「いつ羽化するのかな～」「はやくちょうちょにならないかな～」と、小さなサナギを囲んで見守っていた

これが、羽化寸前のサナギの頭部である。角のように見える部分は、眼や触角、それに背部の隆起を収める為のものらしい。翅の文様も、透けた殻の下にはっきりと見えている。これは、確実に本日中に羽化しそうだ。その一瞬を見せたい！

しかし、昆虫は人間の都合には合わせてくれない。１時間目の授業中に羽化してしまったようだ。私も含め、誰もその一瞬を見ることはできなかった。



羽化したアゲハは、このまま２～３時間じっとしている。ぬれた翅を乾かし、少しずつ展翅させているのだ。この時に子どもたちが触ったりすると、翅同士が癒着してしまい、展翅に失敗してしまう。しかし、そんなことを注意しなくても、触ろうとする子どもは一人もいなかった。

【子どもの観察カードから】

「うかしたアゲハはきれいでした。ぱたぱたしてて、葉根（はね）をいっしょうけんめい、かわかしているのが、とてもかわいかったです」

「こんなに大きいはねが、どうやってあんなにちっちゃいさなぎに入っていたのか、すごくふしぎ。どうやっておって（折って）るのか知りたい」

「こないだ（つい最近）までよう虫で、さなぎで一かいドロドロになって、こんなきれいなチョウになるって、ちょっとありえない気がしました」